

三重県史

資料編

近代3
産業・経済

目次

表紙題字 知事 田川亮三

口 絵	
序	
凡 例	
総合解説	1

第一章 明治前期の産業経済

第一節 概況

一 物産・物価等の状況	
(1) 明治初期	
1 旧三重県・度会県物産表	56
2 三重県普通・特作物産表	65
3 三重県歴観報告	70
4 松方デフレ下の三重県	77
(3) 明治二〇年代	
5 県下同業組合の設立状況	79
6 県下の企業設立状況	80
7 県下の工業製品と販売先	85
二 勸業施策	
(1) 勸業会・勸業委員	
8 県勸業会の開設	94
9 県勸業諮問会と大小部勸業会	99
(2) 博覧会	
10 三重県内物産博覧会の景況	102
11 三重県民設博覧会の景況	110
12 パリ大博覧会における入賞者	113
(3) 共進会・品評会	
13 北牟婁郡共進会の開催	114
14 多気郡共進会の景況	120

目次	15
多気郡農産品評会の景況	123
三重県蚕繭品評会の開催	126
16 東海農区四県聯合共進会の開催	129
(4) 物産陳列場	
17 三重県物産陳列場の展示	131

第二節 農林水産業

一 勸農政策

(1) 西欧農法・技術の導入	
19 『農業三事』を各小区へ分配	143
20 外国果樹の試植および苗木の配布	144
21 馬耕農夫の貸与	145
22 明野試験場における洋種牛の貸与	146
(2) 老農の活躍	
23 農事会開設と農事通信員の設置	146
24 奄芸・河曲郡農談会談話	147
25 関取米の普及と竹成撰の育成	152
(3) 農業技術者の養成	

26 農事講習所の開設と変遷	153
27 獣医開業免許所持者	155
一一 商品生産の奨励	
(1) 茶業	
28 窪田喜三右衛門による紅茶試製	156
29 駒田作五郎の紅茶製造	158
30 三重県製茶専門談話会の開設	160
31 粗製濫造克服のための上申	163
32 三重県製茶会社の創設	165
33 三重県製茶会社の輸出経路と実績	166
34 茶輸出販売条約書	169
35 製茶輸出高	173
36 製茶場数・職工数・賃金の動向	174
(2) 蚕糸業と綿作	
37 鳥羽藩の養蚕奨励	175
38 桑樹栽培法	176
39 燥繭器械の発明	177
40 米国綿の試作栽培	178

三 農事改良の胎動

(1) 精撰米

41 農家収穫米販売上の利害および便否	179
42 稲米調製・俵装の改良	180
43 奄芸河曲郡精撰米組合規約	181
44 精撰米組合法改正同盟会の趣意書	182
(2) 農法の改良	
45 稲の種子精撰法	186
46 肥料製造法	187
47 白江野用水開鑿資金の拝借願	189
48 田圃虫害予防規則	192

四 農家経済とその変動

49 明治中期の農家経済	193
50 明治一〇年代の小作化の進行	198
51 小作人組合撤交社の解散	200
52 農家経済改善のための農業組合の奨励	202

五 明治前期の林業

(1) 山林の地租改正

53 官有地・公有地の播墾承諾書	206
54 公有地の確証調べ	208
55 山林の永代売渡し	210
56 入会山・私有林の境界問題	211
(2) 山林の保護育成	
57 町村共有山林繁殖保護申合せ規則の制定	212
58 下友田村民有山林の取締規約	214
59 菰野村共有山の取締法	218
60 飯高郡伊勢寺村の入会権	221
61 楮樹栽培の奨励	223
六 明治前期の水産業	
(1) 漁具・漁法	
62 鮑捕潜水器使用とその制限	225
63 石花菜および各種海藻の採取	226
64 鯉魚の実態	228
65 真珠貝の繁殖	231
(2) 漁業の保護・規制	
66 浦村植漁業の旧慣回復	234

67	漁業組合準則の制定	237
68	打瀬網漁業の禁止	239
69	相賀浦魚附山林の取締規則	239
70	河川漁業取締規則の制定	241
71	(3) 水産物の流通	241
72	水産物売買の営業戸数	242
73	水産物の流通	242
74	汽車・汽船の開通と水産物流通	245
75	県下魚市場の概況	247
76	(4) 漁村経済	247
77	種類別の漁獲高	250
78	郡市別水産物の産出額	251
79	伊倉津村における作間漁業願	252
80	浜方税の上納	254
81	志摩の漁村口銀法	255
82	相賀浦等の漁村維持法	257

第三節 商工業

67	近代工業の胎動	260
68	(1) 綿糸紡績所	260
69	伊藤伝七に紡績機の払下げ認可	260
70	三重紡績所設立発起人の変更	260
71	三重紡績所の創立規約	262
72	三重紡績所の概略	262
73	三重紡績所の業績	264
74	紡績機械代金の延納願	266
75	三重紡績所の現状と見通し	267
76	三重紡績(株)と洪沢栄一	269
77	三重紡績(株)の創立規約	272
78	三重紡績(株)の誕生	273
79	明治初期の綿紡績業者間協定	274
80	(2) 製糸業	281
81	生糸改会社の設立	281
82	製糸技術の修得	284
83	五世伊藤小左衛門略伝	285
84	伊藤小左衛門の製糸場	287
85	万古焼の沿革と特徴	290
86	伊賀焼の沿革	291
87	三 銀行	294
88	(1) 国立銀行の創立	296
89	第八十三銀行の創立	298
90	第一百五銀行の創立	301
91	第一百十五銀行の創立	303
92	第二百二十二銀行の創立	304
93	(2) 明治中期の銀行	304
94	明治中期の三重県下の銀行	307
95	四 商法会議	307
96	三重商法会議の設立	309
97	第三回三重商法会議の決議	312
98	第四節 交通運輸	316
99	一 維新期の街道と輸送	316
100	乗合馬車取締規則の制定	317
101	内国通運会社本社からの通達	344

102	菰野村山村作左衛門の製糸所	291
103	度会郡野村義雄の製糸所	293
104	製糸伝習場の開設	294
105	日清戦争前後の製糸場	296
106	(3) 製糸器械	296
107	繰糸機の發明	301
108	鈴鹿郡上田村の生糸再製撚掛糸製造所	303
109	(4) 造船	303
110	鳥羽造船所の開設	304
111	(5) 製油	304
112	四日市製油会社の創立	307
113	二 在来産業の発展	307
114	(1) 木綿	307
115	木綿反物生産計画の上申	308
116	松阪木綿の由来	309
117	伊勢国木綿買継組合と仲買組合の規則	312
118	川口平三郎の開業沿革	316
119	(2) 陶磁器	316

119 駅伝営業取締規則の制定

二 鉄道時代の開幕

(1) 明治一〇年代の鉄道計画

120 関ヶ原・四日市間鉄道の請願

121 四日市・垂井間鉄道の請願

(2) 関西鉄道の創設

122 関西鉄道の創設および線路延長願

123 亀山停車場設置の請願

(3) 参宮鉄道の創設

124 参宮鉄道の創立願と趣意書

三 海運近代化への模索

(1) 海 運

125 熱田・四日市間の汽船開設

(2) 河川舟運

126 木曾・揖斐両川筋通船取締規則の制定

第一節 概 況

一 日清戦争の影響

1 日清戦争と県下の商工業

2 三重県重要工産物一覧

二 日露戦後の産業概況

3 県下重要商品の調査報告

三 地方改良運動

4 阿山郡玉滝村の村治

5 員弁郡十社村の報徳社

6 阿山郡鞆田村の改良運動

四 産業組合

7 県下産業組合の趨勢

8 三重県など三県の信用組合調査

9 員弁の購買販売組合事業報告

10 模範的な県下の産業組合

五 共進会・品評会

11 三重県製造品品評会の開催

12 第九回関西府県聯合共進会の開催

第二節 農林水産業

一 地主・小作関係

13 自作別耕地面積

14 玉滝村地主・小作人協議会の議案

15 安濃郡地主会会則

16 神野富田殖産会社の小作人奨励方策

17 地主懇談会の開催

二 米作改良

18 稲の品種別収量試験

19 選種および苗代のつくり方

20 塩水選および短冊形苗代の実行調査

21 三重県農会の産米改良

22 阿山郡における産米改良

23 稲の乾燥比較試験

24 耕地整理の奨励

三 商品生産の発展

38 三重県農会規則

37 三重県農会創立協議会における知事の演説

39	三重県農会の創立経過と町村農会	512
40	一志郡農友会意見書	515
41	大里講農会の実行事業	518
42	鵜村農会の事業	520
六 林業の発達		
(1) 林業の発達と林産物		
43	三重県における木材の需給と価格	523
44	長島港山林物産改良組合の申合せ規約	525
45	種類別林産物の産額	530
46	尾鷲林業の発達	535
(2) 国有林の整備		
47	鞍田村の国有林取締規約	537
48	国有林野の特売	538
49	県設模範林の設置	540
50	国有林の払下げ願い	544
(3) その他		
51	鵜殿貯木場の専用契約	545
52	北山川筏組合の紛争仲裁書	546

七 水産業の発達		
(1) 漁業法の施行と漁業権		
53	真珠貝養殖業認可反対の陳情書	549
54	和具村漁業組合の設置と漁業慣行	550
55	入漁権の登録申請	553
(2) 水産試験・研究		
56	水産試験場の設置	554
57	発動機付き漁船の試験	557
(3) 真珠養殖		
58	半円真珠の発明	560
59	真円真珠の先駆	561
60	真珠介区画漁業権の御木本への貸付け	563
(4) 漁業経済		
61	南牟婁郡における漁村経済状況	566
62	大地曳網営業方針の変更	568
63	いわしの加工	570

第三節 商工業

一 近代工業の確立		
(1) 綿工業		
64	三重紡績(株)の好業績	573
65	三重紡績(株)の伊勢中央紡績合併	574
66	三重紡績(株)の諸会社合併	578
67	三重紡績(株)の職工取扱規則	583
(2) 製糸業		
68	蚕糸業の現状	588
69	関西製糸(株)の設立	592
(3) 造船業		
70	大湊の造船業	593
71	(株)大湊造船所の設立	596
二 在来産業の変貌		
(1) 木綿・織物		
72	主要織物業の沿革と現況	599
(2) 漆器		
73	宇治山田の漆器業	605

(1) 三重県農工銀行		
74	農工銀行設立委員会	607
75	農工銀行の株主募集	607
76	農工銀行の好業績	610
(2) 普通銀行		
77	津農商銀行の設立	618
78	一志銀行の設立	620
79	四日市銀行の設立	623
80	銀行の預金獲得競争	627
81	県下銀行一覧	630
(3) 明治三四年の金融恐慌		
82	百二十二銀行の破綻	634
83	山田銀行の休業	636
84	度会商工銀行の休業	639
85	その他の銀行	640
86	金融恐慌の対策	642
(4) 三井銀行		
87	三井銀行四日市支店の閉鎖	644

四 電力業の始動

88 津電灯俵の開業……………647

五 商業団体の展開

(1) 米穀取引所……………647

(2) 米穀取引所の設立……………647

(2) 商業会議所……………648

90 商業会議所の設立……………648

第四節 交通運輸

一 幻の鉄道計画 — 日清戦後—

91 伊賀鉄道の挫折……………651

二 県内私鉄の概況

(1) 関西鉄道……………653

92 関西鉄道の景況……………653

93 関西鉄道と官設鉄道との競争……………655

94 河原田・津間支線敷設につき陳情……………658

(2) 参宮鉄道……………660

95 参宮鉄道の景況……………660

(3) 宮川電軌……………662

96 宮川電氣への特許状……………662

三 鉄道国有化とその後

97 関西鉄道の買収……………663

98 参宮鉄道の買収……………667

99 鳥羽線の建設概要……………671

100 紀勢鉄道敷設につき意見書……………674

四 軌道・軽便鉄道の発達

101 大日本軌道伊勢支社の動向……………675

102 北勢鉄道の敷設免許申請……………676

103 四日市鉄道の敷設免許申請……………677

104 三重鉄道の敷設免許申請……………678

105 伊勢鉄道の敷設免許申請……………680

106 安濃鉄道の敷設免許申請……………681

107 南勢軽便軌道創立の趣意書……………682

108 養老鉄道の成立過程……………683

五 港湾と海運の推移

(1) 港湾……………683

109 開港法案と四日市港……………684

110 四日市築港問題について……………687

(2) 海運……………688

111 参宮鉄道の航海業兼業認可申請……………688

112 大阪商船の内海航路……………689

第三章 第一次大戦後の産業経済

第一節 概況

一 大戦期

1 不景氣対策をめぐる県会発言……………692

2 県下物価調節の施設一斑……………693

二 昭和恐慌期

3 県下産業の動向……………696

4 産業組合方策についての県通達……………699

5 恐慌下の生活と県会発言……………700

第二節 農林水産業

四 耕地整理

1 小作問題

6 土地買戻し依頼書……………705

7 笠松共徳親子組合規約および誓約書……………705

8 小作料の比較調査……………708

9 神田久志本小作人組合の小作米減額要求……………710

10 三重県下五〇町歩以上の大地主……………713

二 養蚕業等の発展

11 蚕業教育の充実……………715

12 郡市別養蚕戸数……………718

13 本県産業に対する蚕糸業の地位……………719

14 蚕糸業の発達……………721

15 三重県の畜産……………722

三 農業の合理化

16 水稻直播の慣行地……………724

17 改良農具の普及……………726

18 河津農家組合動力農具共同利用の動機……………728

19 除草剤の使用……………728

20	白子町の耕地整理	729
21	松江村田牧地区の耕地整理	731
五 農会および農家経済		
22	玉滝村農会の事業	735
23	各郡町村農会の経費	740
24	大江農家組合設立の趣旨	741
25	米作一反歩の収支	742
26	恐慌下の農家経済	744

35	飛行機利用の魚群探索試験	767
36	北牟婁郡の漁業	770
37	御木本養殖真珠の事業経営	773
38	三重県定置漁業研究会の設立	776

六 林業		
27	三重県下の主要な林業家とその経営	749
28	三重県山林会の設立趣旨	752
29	三重県下の森林火災	754
30	炭焼勘定帳	757
31	木炭委託販売帳	759
32	木炭の県営検査	762

第三節 商工業		
一 紡績資本の再編		
(1) 三重紡績(株)の合併		
39	三重紡績(株)と大阪紡績(株)との合併	777
(2) 中小紡績企業		
40	第一次大戦後の南勢紡績(株)	778
41	昭和初年の笹川紡績(株)	779
(3) 東洋紡績(株)の女工		
42	公設職業紹介所による女工募集	780
43	県外への女工募集	781
44	津工場の県内出身女工の地域別一覧	783
45	寄宿舎の食事	785
46	紡績女工の強制貯金	785

七 水産業の展開		
33	水産試験場における主要試験	763
34	発動機付き漁船に伴う外洋漁場調査	765

47	女子寄宿舎の管理規則	788
48	織上賞与	790
49	深夜業の廃止	793
一一 製糸業の発達		
(1) 組合製糸		
50	度会繭糸販売利用組合五十鈴社の創設	792
(2) 景況		
51	第一次大戦期の亀山製糸(株)	795
52	製糸業の最盛期	795
(3) 経営		
53	井関製糸場の労働者	797
54	工女の賃金	798
55	大正一五年度養蚕組合への奨励金	799
56	大正一五年度製造費	800
(4) 労働問題		
57	宮木製糸場の労務管理	801
三 窯業		
58	第一次大戦期の三重セメント(株)	805

59	万古焼の海外取引	806
60	昭和初期の万古焼の地位	808
61	阿山郡は伊賀窯業(株)の創立	810
62	阿山郡は伊賀窯業(株)の業績	812
四 銀行		
63	四日市銀行と山田銀行の合併契約書	814
64	百五銀行の一志銀行合併	816
五 電力業		
65	馬野川水電(株)の創立	819
66	松阪水力電気(株)の好業績	820
67	県下三電力会社の合併	822
68	停電に対する商工業者の苦情	826
六 公設市場		
69	宇治山田市の公設市場	826
七 金融恐慌		
70	モラトリアム実施後の四日市の経済	829
71	金融恐慌下の百五銀行と四日市銀行	834
72	モラトリアムと産業組合	837

20	白子町の耕地整理	729
21	松江村田牧地区の耕地整理	731
五 農会および農家経済		
22	玉滝村農会の事業	735
23	各郡町村農会の経費	740
24	大江農家組合設立の趣旨	741
25	米作一反歩の収支	742
26	恐慌下の農家経済	744
六 林業		
27	三重県下の主要な林業家とその経営	749
28	三重県山林会の設立趣旨	752
29	三重県下の森林火災	754
30	炭焼勘定帳	757
31	木炭委託販売帳	759
32	木炭の県営検査	762
七 水産業の展開		
33	水産試験場における主要試験	763
34	発動機付き漁船に伴う外洋漁場調査	765
35	飛行機利用の魚群探索試験	767
36	北牟婁郡の漁業	770
37	御木本養殖真珠の事業経営	773
38	三重県定置漁業研究会の設立	776
第三節 商工業		
一 紡績資本の再編		
(1) 三重紡績(株)の合併		
39	三重紡績(株)と大阪紡績(株)との合併	777
(2) 中小紡績企業		
40	第一次大戦後の南勢紡績(株)	778
41	昭和初年の笹川紡績(株)	779
(3) 東洋紡績(株)の女工		
42	公設職業紹介所による女工募集	780
43	県外への女工募集	781
44	津工場の県内出身女工の地域別一覧	783
45	寄宿舎の食事	785
46	紡績女工の強制貯金	785

59	万古焼の海外取引	806
60	昭和初期の万古焼の地位	808
61	阿山郡は伊賀窯業(株)の創立	810
62	阿山郡は伊賀窯業(株)の業績	812
四 銀行		
63	四日市銀行と山田銀行の合併契約書	814
64	百五銀行の一志銀行合併	816
五 電力業		
65	馬野川水電(株)の創立	819
66	松阪水力電気(株)の好業績	820
67	県下三電力会社の合併	822
68	停電に対する商工業者の苦情	826
六 公設市場		
69	宇治山田市の公設市場	826
七 金融恐慌		
70	モラトリアム実施後の四日市の経済	829
71	金融恐慌下の百五銀行と四日市銀行	834
72	モラトリアムと産業組合	837

50	度会繭糸販売利用組合五十鈴社の創設	792
(2) 景況		
51	第一次大戦期の亀山製糸(株)	795
52	製糸業の最盛期	795
(3) 経営		
53	井関製糸場の労働者	797
54	工女の賃金	798
55	大正一五年度養蚕組合への奨励金	799
56	大正一五年度製造費	800
(4) 労働問題		
57	宮木製糸場の労務管理	801
三 窯業		
58	第一次大戦期の三重セメント(株)	805

次 八 昭和恐慌の影響

(1) 工業 73 平田製網(株) 839

74 亀山製糸(株) 840

75 伊藤メリヤス(株) 841

76 三重珪瑯(株) 843

(2) 銀行 77 百五銀行 844

78 四日市銀行 846

79 三重県農工銀行 848

九 反産運動 80 商工業者の反産運動 850

第四節 交通運輸

一 紀勢鉄道敷設運動と地域社会

81 紀勢鉄道敷設につき意見書 852

82 紀勢鉄道の路線選定につき陳情 852

二 改正鉄道敷設法と三重県

83 改正鉄道敷設法による県下の鉄道計画 857

84 名松線停車場設置につき陳情書 858

三 県内私鉄の消長と電鉄

85 伊勢電気鉄道の景況 859

86 伊賀鉄道の工事施行につき陳情 861

87 伊賀鉄道の電化申請 864

88 四日市鉄道の電化申請 865

89 四日市鉄道の景況 866

90 三重鉄道と四日市鉄道の合併 866

91 朝熊登山鉄道の設立趣意書 867

92 大日本軌道伊勢支社線の譲渡 870

93 中勢鉄道の延長線一部開通 871

94 養老鉄道と揖斐川電気の合併申請 871

95 揖斐川電気の鉄道譲渡許可申請 874

96 志州電気鉄道の計画趣意書 876

97 志摩電気鉄道の終点変更と鶴方村 880

98 参宮急行電鉄の計画につき意見書 886

99 参宮急行電鉄の誕生と大和鉄道 889

100 松阪鉄道の電化申請 890

101 松阪鉄道の停車場新設認可申請 891

102 安濃鉄道の安東・片田間運輸営業廃止 893

103 藤原鉄道の敷設免許申請 894

104 藤原鉄道の出願と北勢鉄道 895

105 北勢鉄道の延長線敷設をめぐる動き 897

四 索道と自動車

(1) 索道 106 北山索道の景況 899

(2) 自動車 107 尾鷲自動車運輸の設立趣意書 901

108 紀伊自動車の陳情 902

109 県下の旅客・貨物自動車運輸状況 904

五 港湾と海運の動向

(1) 港湾 110 四日市港・鳥羽港に関する調査書 907

111 尾鷲港ほか四港に関する調査書 914

目次 (2) 海運

8 おぼろタオル産業報国会の会則 961

7 上野産業報国連合会の設立趣意書 957

三 産業報国会

6 県下経済更生特別助成村の計画と実施 951

5 経済更生計画を樹立した県下町村名 948

4 県下の経済更生計画樹立状況 938

3 県農山漁村経済更生委員会の設置 937

二 経済更生計画

2 統制経済をめぐる県会発言 931

1 県下の経済状況をめぐる県会発言 926

一 県会と経済状況

112 伊勢湾と欧州航路運賃 916

113 大阪名古屋航路と紀勢沿岸航路 920

第四章 戦時下の産業経済

第一節 概況

第二節 農林水産業

一 農業増産と農家経済

9 恐慌下の農家負債……………963

10 不況下の農家経済……………965

11 農家経営研究会の信条と要旨……………968

12 農会の戦時経済対策……………969

13 本県の米生産および消費概況……………970

14 戦時下の農業指導方針……………973

15 副業の変遷……………978

16 農機具製造業組合販売価格……………979

二 小作問題および自作農創設

17 自作農地創定維持資金の貸付け……………982

18 自作農資金貸付けにつき要望……………985

19 笠松共徳親子組合の小作米減免……………989

20 不在地主からの土地買戻し……………991

三 農林水産資源利用の合理化

21 作目別・月別農業労働力の配分……………997

22 水稻奨励品種の作付面積と収量……………998

23 自給肥料の改良増産と施肥改善……………1000

24 農会主催の草刈大会……………1002

四 農産物等の統制

25 三重県肥料配給制当要項……………1004

26 肥料割当制の実施……………1005

27 三重県農機具配給統制要項……………1007

28 米穀の移動統制……………1008

29 農地の作付統制……………1010

五 農業団体の整備

30 東柘植村農会事業の実行図……………1012

31 白子共栄農家組合の共同作業……………1020

32 農家組合網の整備……………1026

33 『三重県農会報』の回顧……………1029

34 部落協同体制の確立……………1031

六 林業

35 杉の人工造林収支……………1033

36 公有林野の整理成績……………1036

37 椎茸栽培講習会の開催……………1038

38 竹材工業の発展……………1040

39 木炭の配給統制……………1042

40 林業労働者賃金の統制……………1045

七 水産業

41 錦信用購買利用組合の経営……………1047

42 不況下の遠洋漁業……………1053

43 漁村における労資分配制度……………1056

44 海女の仕事と生計……………1057

45 赤潮発生年代記……………1059

46 水産業の概況……………1062

47 戦時下の遠洋漁業……………1065

第三節 商工業

一 繊維産業

(1) 綿紡績

48 平田製綢(株)の業績……………1070

49 徴兵された労働者の給与……………1070

五 商業

56 東邦電力と合同電気の合併……………1079

55 電灯・電力料金値下げの意見書……………1078

54 石原産業海運(株)の紀州鉱山開発……………1076

53 鉱山業の活況……………1075

52 三重珪瑯(株)の業績……………1074

三 鉱業

50 関西製糸(株)の業績……………1071

(3) 毛織物

51 (株)三重製絨所の業績……………1072

二 その他の工業

52 三重珪瑯(株)の業績……………1074

五 商業

57 中国の日貨排斥とポンド下落の影響……………1083

58 津市の大門百貨店の開業……………1085

59 日中戦争の四日市商業に対する影響……………1087

六 銀行

60 銀行取付騒ぎと百五銀行二本木支店……………1089

61 四日市銀行の第一次整理案 1093

62 四日市銀行更生期成同盟会 1097

63 三重銀行の誕生 1097

64 日本勧業銀行と県農工銀行の合併 1100

七 中小企業問題

65 零細自営業者の窮境 1103

66 応召後の納税につき税務署への陳情 1104

67 万古業界の不振 1105

八 四日市臨海工業地帯の形成

68 四日市市の工場誘致方策 1108

69 日本板硝子(株)の四日市進出 1109

70 石原産業海運(株)の四日市工場操業 1110

71 工場廃液と灌漑用水 1110

72 四日市臨海地帯の開発計画 1111

73 工業用水道敷設の建議 1117

九 産業統制

74 綿糸の統制 1118

75 鉄製品の配給・製造統制 1119

87 名松線の奥津・名張間中止 1141

88 名松線の建設過程 1142

二 昭和一〇年前後の県内私鉄

89 参宮急行電鉄へ伊賀線譲渡 1144

90 桑名電軌の景況 1145

91 伊勢電名古屋線を新設会社へ譲渡 1146

92 参急と伊勢電の合併につき陳情 1148

93 伊勢電気鉄道の整理要項 1150

94 参急と伊勢電の合併認可申請 1154

95 東邦電力の合同電気合併認可申請 1157

96 志摩電気鉄道の景況 1159

三 戦時下の交通事情

97 時局下の鉄道輸送事情一斑 1161

98 参急塩浜駅の軍用線連絡工事協定書 1166

99 安濃鉄道の椋本・林間運輸営業廃止 1166

100 輸送力強化と三重鉄道の電化 1167

101 中勢鉄道の解散決議 1169

四 戦時交通統制

76 電力飢饉 1124

77 蚕糸業の統制 1125

一〇 労働力

78 工場増加に伴う労働力不足 1127

79 軍需工場労働者の退職制限 1129

一一 軍需産業と軍工廠

80 航空機工場の建設計画 1129

81 戦時下の東芝三重工場 1131

82 戦時下の東洋ベアリング桑名工場 1133

83 亀山製糸(株)の軍需工場への転換 1135

84 おぼろタオル(株)の軍需工場への転換 1137

85 鈴鹿海軍工廠兵器および軍需品目録 1138

第四節 交通運輸

一 紀勢線の延長と名松線の建設

(1) 紀勢線

86 紀勢東線の延長速成につき陳情 1140

(2) 名松線

102 神都交通の誕生と営業概況 1170

103 参急と関西急行電鉄の合併認可申請 1173

104 参急と養老電鉄の合併認可申請 1174

105 大軌と参急の合併認可申請 1175

106 戦時統合会社三重交通の誕生 1179

五 省営自動車

107 亀山・三雲間の自動車運輸計画案 1183

108 奥津・名張間と尾鷲・木本間路線の選定 1188

109 紀南線(尾鷲・上木本間)延長につき陳情 1189

六 戦時下の港湾

110 松阪港修築につき意見書 1190

111 千代崎港修築につき意見書 1192

資料提供者および協力者 1193

あとがき 1195

付 録

第九回関西府県聯合共進会全景(明治四十年)

三重県全図・統計上ヨリ見タル三重県ノ地位(昭和五年)

口絵目次

- | | | | |
|---|---------------------|----|---------------------|
| 1 | 鯉 漁 | 9 | 現存する大正期の伊賀焼登り窯 |
| 2 | 農業館掛図 | 10 | 明治期の製糸場 |
| 3 | 旧伊藤製糸場の現景 | 11 | 第二百二十二国立銀行券 |
| 4 | 錦絵・伊勢国鮑採りの図 | 12 | 日本勸業銀行津支店（元三重県農工銀行） |
| 5 | 三重紡績㈱の図 | 13 | 宇治山田町の公設市場 |
| 6 | 白江野用水の工事 | 14 | 大門百貨店の開業 |
| 7 | 日中戦争時の徴用漁船 | 15 | 関西鉄道㈱の蒸気機関車 |
| 8 | 「鉱業報国」を掲げる石原産業㈱紀州鉱山 | 16 | 紀伊自動車㈱本社の創立 |